

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 号	氏 名	濱 峰 幸
論文審査担当者	主 査 本田 孝行 副 査 竹下 敏一 ・ 駒津 光久		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>肺非結核性抗酸菌症（肺NTM症）に対する治療開始基準は明確なものがなく、症状、画像所見等を総合的に評価し、増悪している症例には治療を開始しているのが現状である。近年、慢性疾患に関して健康関連QOL（HR-QOL）を評価することの重要性が指摘されているが、現在のところ肺NTM症に関してはHR-QOLを評価する基準がない。他の呼吸器疾患で使用されているHR-QOL評価票である、COPD assessment test（CAT）、St. George's Respiratory Questionnaire（SGRQ）の肺NTM症患者に対する有用性について、検討を行った。</p> <p>信州大学医学部附属病院呼吸器内科に通院している52人の肺NTM症患者を対象とした。肺NTM症の診断基準としてAmerican Thoracic Society/Infectious Disease of Americaのガイドラインを用いた。肺NTM症患者に対するCAT、SGRQの有用性を評価するために、同質問表の信頼性、一貫性、妥当性をそれぞれ評価した。信頼性の評価のために再テスト法（第1日目、第5日目の2回テストを受ける）を行い、また一貫性の評価のためCronbach <math>\alpha</math>係数を計算した。妥当性の評価として一般のHR-QOL評価票であるShort Form-36 Health Survey（SF-36）とCAT、SGRQとの相関を検討した。SF-36は32の質問項目があり、身体サマリースコア（PCS）、精神サマリースコア（MCS）を計算できる。CAT、SGRQの点数とPCS、MCSの相関係数を求めた。対象患者に、それぞれ第1日目にCAT、SGRQ、SF-36、精密呼吸機能検査、6分間歩行試験を施行し、第5日目にCAT、SGRQ、SF-36を再度施行した。</p> <p>その結果、濱は下記の結論を得た。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. CAT、SGRQの総合点は、第1日目と第5日目の間にそれぞれ<math>r=0.85</math>、<math>r=0.91</math>と強い相関を認めた。</li><li>2. CAT、SGRQの総合点のCronbach <math>\alpha</math>係数は、それぞれ0.879、0.911と一貫性は保たれていた。</li><li>3. SF-36との相関に関して、CAT、SGRQの総合点とPCSは、それぞれ-0.63、-0.57と中等度から強い相関を認めた。CAT、SGRQの総合点とMCSは、それぞれ-0.46、-0.42と中等度の相関を認めた。</li><li>4. 呼吸機能とは、CAT、SGRQともに%DLcoのみ中等度の相関を認め、6分間歩行距離とは弱い相関を認めた。</li></ol> <p>これらの結果により、肺NTM症患者に対するHR-QOLの評価として、CAT、SGRQは有用であることが確認された。呼吸機能、6分間歩行距離が比較的保たれている段階で、QOLの障害が出現している可能性があり、CAT、SGRQによるHR-QOL評価は肺NTM症患者に治療を開始する基準の1つとなる可能性が示唆された。</p> <p>以上をもって主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			